



今年度第1号ということで、今回の「自立活動だより」では自立活動の基本的な考え方を改めてお伝えします。「そんなこと、もう知ってるよ」という方も多いかと思いますが、再確認のつもりで目を通していただけたらと思います。



自立活動の指導ってなに？

特別支援学校では、国語や体育、生活単元学習、作業学習などの授業があります。これらの授業を通して、児童・生徒は「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」などを育てていきます。しかし、例えば「気持ちが不安定になってしまい、授業になかなか取り組むことができない」「座っていると姿勢が崩れてしまい、教材に注目できない」「先生や友達に自分の考えをうまく伝えられない」など、学ぶための土台となる必要な力が身に付いていないと、効率的に学習が進みません。そこで、自立活動ではそれらの土台となる力を育成するための指導を行うのです(図1)。具体的には、「先生と一緒に気持ちを落ち着ける方法を見つける」「体幹を鍛えたり、座りやすい椅子を見つけたりして安定した姿勢で座れる時間を増やす」「絵カードやタブレット端末を使った自分の気持ちを伝える方法を見つける」などの指導が考えられます。自立活動によって学ぶための土台ができてくると、教科等の学習がより効率的に習得しやすくなり、結果的に調和的発達に向かうことができるのです。

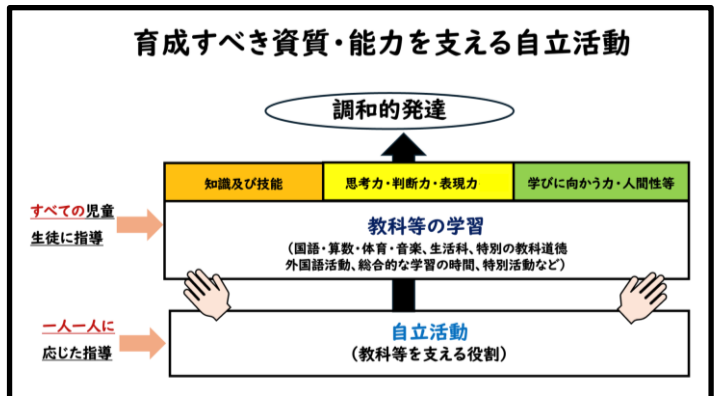


図1. 育成すべき資質・能力を支える自立活動



自立活動の区分と項目ってどう使うの？

自立活動には、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」といった六つの区分と、各区分に含まれる27項目の項目があります(図2)。

自立活動の指導内容は、これら6区分27項目の内容を踏まえて設定します。ただ、この区分と項目、「結構分かりにくいな」と思う人もいるのではないのでしょうか。そこで、今回は自立活動を料理にたとえてみたいと思います(図3)。

区分	項目
1.健康の保持	(1)生活リズムや生活習慣の形成に関すること (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること (5)健康状態の維持・改善に関すること
2.心理的な安定	(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
3.人間関係の形成	(1)他者とのかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること
4.環境の把握	(1)保有する感覚の活用に関すること (2)感覚の認知や特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助手段及び代行手段の活用に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲への状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手振かりとなる概念の形成に関すること
5.身体の動き	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること (3)日常生活に必要な基本動作に関すること (4)身体の移動能力に関すること (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
6.コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (4)コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

図2. 自立活動の区分と項目

自立活動においては栄養状態が偏っている子（発達に偏りがある子）に対して、その子に合ったオーダーメイドの料理を作ることが大事です。はじめに、料理を作る前にその子の栄養状態がどのようなものなのか（つまずきや困難さ）、どのような料理を作ればより元気になるのかを知る必要があります。これが実態把握の段階です。次に、その栄養状態に応じて、必要な栄養素の含まれた素材・食材（6区分 27 項目）を選び、組み合わせてメニューを考えます。そして、子どもが食べやすくおいしいメニューを考えたり、実際に料理を作って提供したりする段階が、自立活動の「指導計画の作成や指導の実施」に該当します。

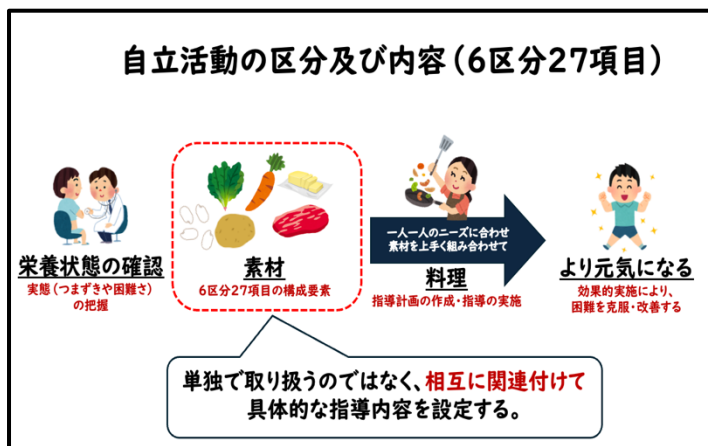


図3. 自立活動を料理にたとえてみると

実際の自立活動の目標設定は、学習指導要領自立活動編の「流れ図」にもあるようにもう少し複雑です。今回は自立活動の区分と項目についてのみ簡単にお伝えさせていただきましたが、今後また目標設定についても分かりやすく伝えていきたいと考えています。

参考文献：菊池一文(2022)確かな力が育つ知的障害教育. 東洋館出版社

自立活動選択研修会の様子



今年度は夏季研修を含め、全9回の選択研修を予定しています。今回は、第1回と第2回の内容について簡単に報告させていただきます。

第1回「前年の自立活動を見てみよう」

6月に相談支援部の教師が、前年の自立活動の指導の様子を動画で紹介しました。本校の自立活動では、児童・生徒の課題や目標によって、さまざまな授業や支援方法の工夫がなされています。研修会で共有した先生方の素晴らしいアイデアや実践例を今年度の自立活動にも生かしてもらえたらと考えています。



第2回「摂食について」

7月の研修会では、中嶋理香先生（日本福祉大学・教授）と中村明日香先生（あいち小児保健医療総合センター・言語聴覚士）のお二人を講師に迎え、摂食に関する御講義と本校事例についての御助言をいただきました。自由参加の研修でしたが、多くの教師が参加していたことから、摂食への関心が高いことが伺われます。中嶋先生からは「先行期」「準備期」「口腔期」など、摂食機能の発達段階から丁寧に教えていただきました。今後の自立活動の指導及び給食指導の大きなヒントになったかと思えます。

